

- ▶ 作業路開設にあたっては国県が定める標準事業費内ではあることには限界があり、場所によっては路面が軟弱なため移動速度が遅いフォワーダなどの車両による木材搬出を余儀なくされることにより作業効率の低下を招いています。また、近年増加している集中豪雨などにより、開設間もない作業路の路肩崩壊、路面洗堀などが発生し、森林整備に支障をきたすケースも増加しています。
- ▶ そのため、森林整備の基盤となる作業路の機能強化に必要な経費の一部を支援することで作業路の強靱化を図り、効率的な森林整備と安定的な木材生産を推進する森林作業路機能強化支援事業を実施しています。

(対象となる経費)

- ① 路盤機能強化に要する経費
- ② 排水機能強化に要する経費
- ③ 幅員拡幅改良に要する経費

□ 事業内容

【事業費】 10,000千円 (うち譲与税10,000千円)

- 【内容】
- ① 路盤機能強化に要する経費に対する補助
路盤材 (山土砂、碎石、割栗石) の敷設
※厚さは10~20cmを基準とする
※1㎡当たり3千円を上限
 - ② 排水機能強化に要する経費に対する補助
横断工及び排水構造物の新設
※1箇所当たり500千円を上限
 - ③ 幅員拡幅改良に要する経費に対する補助
幅員改良、線形改良及び縦断勾配改良
横断勾配改良など
※1m当たり5千円を上限

□ 事業実績・成果

【事業量】 河合町稻越地内 L = 1,723m
神岡町麻生野地内 L = 1,970m



(路盤材の敷設)



(排水構造物の新設)



(路盤材の敷設)



(幅員改良)

- ▶ 森林整備の促進に必要な取り組みとして、これまで関係事業者などと行政により「飛騨市森林集約化推進協議会」を組織し、森林所有者の特定と施業同意（集約化）を推進しています。
- ▶ しかしながら、地籍調査が完了していない森林では、施業同意後の境界明確化作業に多くの時間と労力を要するため、森林整備の進捗に支障を来しています（境界不明瞭問題は、林業技術者不足と並んで森林整備が進まない大きな要因となっている）。
- ▶ これらの状況を踏まえ、令和3年度より森林集約化協議会の体制及び所掌業務の見直しを行い、これまでの森林集約化作業に加えて境界明確化事業を合わせて実施することとしています。

□ 事業内容

【事業費】 5,749千円（うち譲与税5,749千円）

【対象森林】 10年以上森林整備が未実施
森林経営計画団地外

【優先順位】 土砂災害防止機能（山地災害危険地区など）
水源涵養機能（下流域の水道施設有無など）

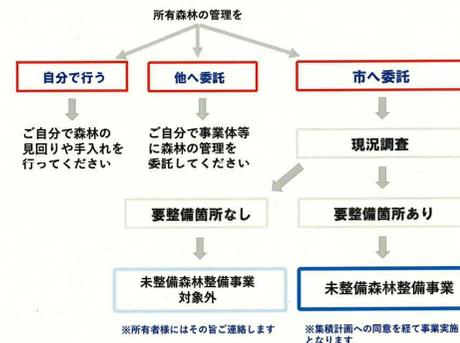
【内容】 各地区での地元説明会の実施
意向調査の実施
対象森林の測量
現地立会確認
集約化データの作成

□ 事業実績・成果

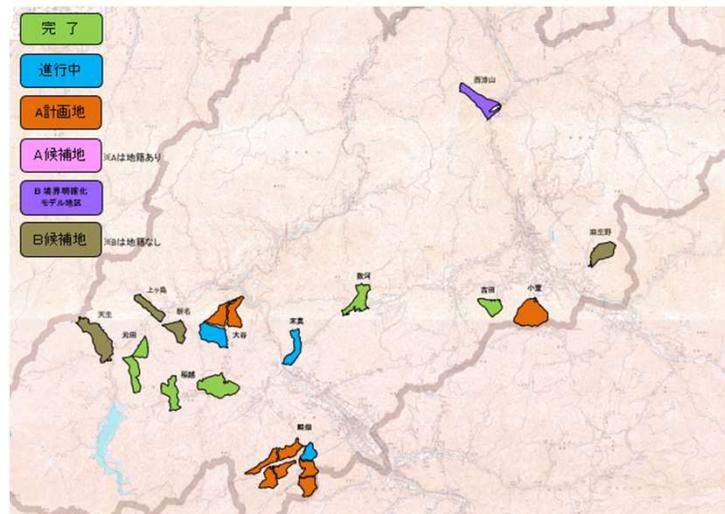
【事業量】 意向調査及び集積計画

古川町末真地内 1.77ha
古川町畦畑地内 0.80ha
河合町大谷地内 2.13ha
境界明確化
神岡町西漆山地内 8.36ha

意向調査回答例と事業の流れ



(意向調査地元説明会)



(境界明確化現地立会確認)

- ▶ 令和元年度よりスタートした森林経営管理法の下で効率的な森林整備を実施できるよう、令和3年度において未整備森林整備を実施する箇所及び優先順位に関する基本方針を定めました。
- ▶ 方針では、経営に適した森林はこれまでどおり集約化及び境界明確化を経て民間事業者が森林経営計画を策定し国県補助を活用した森林整備を進める一方で、経営に適さない条件不利地域の森林については、意向調査実施後、森林経営管理法に基づき市町村森林経営管理事業として飛騨市が主体となった森林整備を行うこととしています。

□ 事業内容

【事業費】 6,581千円（うち譲与税6,581千円）



(実施前)



(実施後)

□ 事業実績・成果

【施業種】 保育間伐、間伐率：30%
(一部保安林要件により20%)

【事業量】 河合町稲越地区 11.23ha (74箇所)
河合町元田地区 2.53ha (7箇所)
神岡町吉田地区 3.24ha (12箇所)
合計 17.00ha (93箇所)



(実施前)



(実施後)

- ▶ 飛騨市が保有する森林は、これまで主に森林環境の保全と災害に強い森づくりを目的として実施してきましたが、市内ではスギ、ヒノキを中心とする人工林の持続可能な資源としての利用と、これまで積極的に活用してこなかった広葉樹資源に着目した取り組みの推進が課題となっています。
- ▶ そのうち、戦後余り手が付けられなくなった広葉樹天然林は、手入れがされないまま70～80年生ままで生長し、更には皆伐中心に伐採が行われる国内においては、次第に多様な広葉樹の森づくりに必要なノウハウが失われてしまっていることから、飛騨市型の持続可能な広葉樹林業の仕組みづくりに必要な森林整備に関する技術や知見の蓄積と、天然林の質的・構造的な改善を目的とする天然林整備を試験的に実施しています。

□ 事業内容

【事業費】 5,840千円（うち譲与税3,787千円）

【内容】 飛騨市広葉樹天然生林の施業に関する基本方針に基づく天然林施業（データ収集）

（場所）

宮川町菅沼字わさび谷地内

（事業量）

下刈り 2.40ha

帯状択伐 0.80ha

作業路新設 115.7m

（その他）

67～77年生（ブナ、ミズナラ、ホウノキ、ウダイカンバ、スギなど）

□ 事業実績・成果

【搬出材積】 265.165m³

※用材比率：35.3%

【更新確認】 毎年、更新状況を確認し、その結果を市の基本方針に反映

実施日：R 6.5.9

ウリハダカエデ、ヤマモミジの稚樹を確認



（タワーヤーダーによる集材 ※イメージ）



（市の基本方針に基づく帯状択伐）



（伐出された材）

- ▶ 飛騨市はこれまで積極的に活用されてこなかった広葉樹を地域の重要な資源と位置付け、適切な森林整備により価値の高い森をつくとともに、小径木広葉樹の活用を通じて地域に新たな経済循環の創出を進める「広葉樹のまちづくり」を推進してきました。
- ▶ こうした取り組みを進めるには、市内外の方々に飛騨市の広葉樹の価値を知っていただくことが必要不可欠ですが、未だ身近な場所に市内産広葉樹が使用されている例は十分とは言えない状況です。そこで、国内の商業、観光、医療、集会施設及び企業などのエントランス、サロンなど、人が多く集う場所での市内産広葉樹活用を支援することで、市内産広葉樹材及び広葉樹のまちづくりのPRならびに飛騨市のイメージアップを図ります。

□ 事業内容

【事業費】870千円（うち譲与税870千円）

【内容】飛騨市産広葉樹を原木材積3㎡以上もしくは製材材積1.5㎡以上使用した内装及び外装の木質化、木製家具・什器などの設置

補助率：対象経費の1/5（上限1,000千円）

木質看板の製作

補助率：対象経費の1/2（上限100千円）

□ 事業実績・成果

【内容】東京都足立区 東京スバルショールーム
飛騨市産ブナを活用したソファァー・サイドテーブル・
テーブル・アームチェァ
使用材積（製材）2.7㎡



（飛騨市産広葉樹原木の流通土場の様子）



（飛騨市産ブナを活用したソファァー・サイドテーブル）



（飛騨市産ブナを活用したテーブル・アームチェァ）

- ▶ 飛騨市は、観光とは違った視点でも飛騨市に関心を持っていただき、広葉樹のまちづくりを核として新たな飛騨市ファンを作ることや、滞在・宿泊・飲食などによる経済効果はもちろん、広葉樹の活用という全国でも珍しい挑戦に興味・関心を持っていただき、今後、取り組みの応援者や関連する様々な事業で連携できる仲間（いわゆる関係人口）を全国に増やすことを目的として、飛騨市広葉樹のまちづくりをツアー形式で体験いただく「飛騨市広葉樹のまちづくりツアー」を開催しています。
- ▶ ツアーは、1回当たりの募集定員を10名程度とあえて少なくするとともに、実際に森を歩くなどして時間をかけて説明することで、飛騨市及び飛騨市広葉樹のまちづくりについて正しい理解を深めていただける内容としています。

□ 事業内容・実績

【事業費】532千円（うち譲与税532千円）

【内容】開催回数及び開催日

（第1回）R 5.6.26〔月〕～27〔火〕

（第2回）R 5.7.8〔土〕～9〔日〕

（第3回）R 5.9.16〔土〕～17〔日〕

（第4回）R 5.9.28〔木〕～29〔金〕 ※いずれも1泊2日

参加者数：延べ34名

（ツアーカリキュラム）

- ① 広葉樹のまちづくり概要説明
- ② 飛騨市独自の広葉樹サプライチェーンについての説明
（広葉樹製材所、広葉樹流通拠点等の現地見学）
- ③ 価値の高い森づくりについての説明（広葉樹の育成木施業関係）
- ④ 広葉樹を活用した木製品の作り手（工房）訪問・説明
- ⑤ ヒダクマの取り組み説明及びFabCafeHida等の見学
- ⑥ 総括質疑及び参加者全員による意見交換



（広葉樹のまちづくり概要説明）



（価値の高い森づくりについての説明）



（広葉樹を活用した木製品の作り手 訪問・説明）